

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000359		
法人名	有限会社 敬愛サービス		
事業所名	グループホーム ななかまど大麻		
所在地	北海道江別市大麻元町192番地28		
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171000359-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「一人ひとりの喜怒哀楽で輝くところ」の理念の下、人のもつ様々な感情の中で喜びや楽しみだけではなく、怒りや悲しみも受け止めその人らしく、充実した日常生活を送る事が出来る様、職員一同お手伝いさせて頂いていております。また、自治会や地域の行事にも積極的に参加をし、地域社会の一員として生活の継続に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街中心部より車で15分程の豊幌地区に位置し、国道12号線沿い、JR大麻駅から徒歩圏と至便な環境下に立地している。開設は平成14年で、ホーム用に新設された2階建ての建物の各階に1ユニットが入り、2ユニット18名の高齢者が生活を共にしている。法人は同地区において、もう1ヶ所グループホームを運営しており、現在も相互に自粛傾向にあるが、地域密着型サービスとして、地域町内会や他法人の事業所等と相互の協力体制作り尽力してきた。現体制になってから代表を中心に、職員、そして利用者家族との意見交換によって作られた事業所理念「一人ひとりの喜怒哀楽で輝くところ」を念頭に、職員は日々その実現に努めている。利用者家族には、電話連絡の他、定例でお便りを送付しており、日常生活における何気ないシーン、健康状態等を詳細に伝えており、好評を得ている。地域とは、コロナが5類に分類された現在においても、共同生活の場としての感染防止対策に苦労しながら、災害時の協力体制や地域行事参加等、連携を維持して、ホーム運営への理解に努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある			○	3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員で考えて、代表がまとめ日誌に記載 いつも目に入る所に掲げ、ユニット会議には職員全員で唱和し確認している。	地域密着型サービスとしての指針を盛り込んだ理念を掲げ、日常的に共有している。また、理念の達成度について定期的に会議の場で検証、協議しながら、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会で行われるバーベキュー大会や日帰り温泉に参加したりしています。散歩に出掛ける時には、近隣の方に挨拶をし積極的に声を掛けている。	町内会、地域活動に積極的に参加していた。地域との交流、回覧板での事業所の近況の周知等、関係維持について、職員間で定期的に協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を対象に認知症を理解していただくよう、職員も加えて研修を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、町内会、包括、民生委員、ご家族、利用者様等参加で意見や希望などを聞き参考にし、サービス向上に活かしている。	集合型での会議を実施し、地域包括支援センター職員、地域関係者、家族や利用者の参加を得ている。定例報告に加え、事故、ヒヤリハットや防災関係などを報告し、委員からの意見は事業所のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表が中心となり取り組んでいる。	行政窓口とは、代表者が中心となって各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を担っており、地域包括支援センター主催の研修・活動への参加や、地域高齢者や事業所の状況について、窓口と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開錠しており、ユニット会議で身体拘束についての理解を共有して、「身体拘束はしない」と言う事を全職員の共通で実施している。	身体拘束、虐待について委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やユニット会議にて、学ぶ機会を多く持ち虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している利用者様もいまして、ユニット会議で代表より必要性が説明、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章の説明をする時は、専門用語使う事なく、十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時には、要望等を聞き運営に反映させています。利用者様にはモニタリングで要望を聞き全職員で共有しています。	本人・家族が意見・要望を話しやすい関係作りを心掛けている。面会方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開している。毎月のお便りで個別の生活状況・健康状態について、写真を添えて詳細に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で気づいた事や、意見等また感じた事を伝えられるように努め、働きやすい職場を目指しています。	申し送りや日業業務内の場で提案や意見を聞き取り、職員との関係を維持している。また、代表、管理者による個別面談で意見やアイデア、工夫について運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は個々の面談をする時間を設け、環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修を通し、学ぶ機会を多く持ち、経験の有無に関わらず、互いに高めあう努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとの研修や交流会を通して、サービスの質向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が戸惑っていたり、困りごと等に寄り添い。安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や今後についての話し合いをし、家族が面会に来園された際は、気軽に話ができるような関係づくりをして、要望が出しやすくなるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には迅速に対応し、ご本人様・ご家族様とも話し合いの場を持つように配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と職員とのコミュニケーションを図り、共存共栄を目標に、その人にあった支援に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ流行時は、ご家族のホーム行事の参加、面会時間などの制限を設けていた。現在は制限緩和され、ご家族の方がいつでも面会出来るように工夫している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで馴染みの場所へ行ったり、季節ごとの手紙または電話などで、関係が途切れる事がないように対応している。	春以降、コロナの発生状況に合わせ、馴染みの場所や希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、想いに添える様、柔軟に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者様同士の関係を把握するように努め、共同空間の中で利用者様同士が自由に過ごせる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談を受け入れる体制にあり、継続的な関わりを持っています。またホームの行事などは事前にお知らせして、気軽に尋ねられるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者様一人ひとりの今までの生活歴を充分に把握し、ご本人様の思いに近づけるように努めています。	毎日の生活に寄り添い、かかわりの中から、好き嫌いや希望等について、利用者から具体的な思いを聞き取り把握し、本人本位の生活となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は事前調査で行っている。使い慣れた家具などを利用し、安心して生活できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、月1回の体重測定、週1回の訪問看護もっており、職員は日々の様子を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々で課題を出し合い、毎月行われているユニット会議で議論し、介護計画を作成している。	本人の気持ち、思いを大切に家族の意向を据えながら計画を作成し、短期目標を設定している。日々の職員の気付きやモニタリング結果を基に課題評価を行い、本人と家族、医療機関の意見を踏まえて、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居様の個別の記録を取り、気づいた事は記録に記入し、業務日誌や申し送り等で情報交換を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居様のご家族が来園された時、または電話で連絡した際には、ご家族様の希望を聞き改善できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練時には、消防立ち合いで避難訓練を行っている。不審者対策のため、玄関には人感センサーを取り付けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ毎日訪問診療の医師が来園し、一人ひとり診て頂いている。何かあれば、すぐに相談できる環境にある。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。医療機関からの訪問診療、訪問看護の協力体制があり、受診内容については記録を基に職員間で共有し、家族にも詳細に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回入っており、健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、ご家族様との連絡を密にしている。職員はご本人様の状況確認の把握に努め、退院後の支援について情報交換の場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の異変、重度化した場合は医師、ご家族様と共に話し合いをし、その方針を職員とケース記録、申し送り等で共有している。	重度化や終末期における対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、母体医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の指定病院を定めている。又、対応の流れを記載した一覧表を貼っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いのもと、昼・夜間の年二回の防災訓練の実施。また、消火訓練を行っている。	地震災害で得た教訓を活かし、火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。同法人の他サービス事業所や地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシーを損ねないように、職員が気を付けている。個人情報厳守するよう職員会議で話し合っている。	職員は日々の接遇や言葉使い、望ましいケアについて職員本位の表現とならぬよう定期的に話し合っている。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、複数の事柄から選んでいただき、本人に確認してもらい了承を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別化や生活歴、本人のニーズを踏まえた上で、出来るだけ希望に添えるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用。ご本人様と一緒に洋服を購入し、着替えの洋服選び等支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の身体状況に合わせ、食事に関わるお手伝いを一緒に行っている。行事の時は季節のメニューを取り入れている。	利用者の希望を取り入れており、季節感・彩りを大切にしている。皆で育てたホーム菜園の野菜を共に食す等、楽しみあるひと時としている。感染防止に留意しながら、出来る範囲のお手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状況に合わせた食事量・水分量を確保し、ケース記録に記入、申し送りや情報共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員と一緒に口腔ケアを行い、口腔内の確認を行っている。週一回の訪問歯科では歯科医師・歯科衛生士により口腔内確認をしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を記録して、情報の共有を行っている。声掛けや誘導を行って、自立排泄できるようにして、なるべく布パンツを使用するよう努めている。	職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有し、個々のトイレでの自立支援に取り組んでいる。衛生用品のサイズ感等、定期的に身体に合ったものに見直す機会を設けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排泄記録をつけ、排便のリズムを把握できるように努めている。青汁や食物繊維のある飲み物を提供している。また、個々の体調に合わせて運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望する時に合わせて入浴して頂いている。身体状況を見て、安全に入浴するため、二人介助にて支援する場合もある。	週2回以上を目標に時間帯や入浴回数等、利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援している。同性介助や担当職員、湯温等の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人になりたい時は居室へ戻り休んで頂き、皆様にデイルームでカラオケを歌ったり、楽しく過ごして頂ける様に支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、職員全員で把握し、薬が変更した時も、必ず申し送り等に記入し、体調の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の情報をもとに、得意な事や趣味などを知り、本人のニーズにできるだけ応えられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩をしたり近道をドライブしたり、月に一度程度は、全員で外出を楽しみながら生活できるように努めている。	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。コロナ禍で自粛していた行事等、職員間で再開に向けて話し合っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、本人の欲しいもの等を一緒に買い物に行くように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族と話したい時は、施設の電話や携帯電話を持っている方は、掛ける事が出来るよう支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに置物や壁飾り等を変えて、居心地よく過ごせる様に工夫している。	共用スペースは利用者の体感を聞き取りながら、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った作品が飾られ、明るく清潔で安全な環境作りに留意し、椅子やソファを各所に配置し、好きな場所で自由に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様と食事席が同じになるように都度考え、談話されている。時々量の小上がりも使用。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、落ち着いて過ごせる様に努めている。	本人の安心できる環境を整えるために、入居前の自宅の様子を理解し、動線やベッドの配置を検討している。思い入れのあるものが持ち込まれ、家族写真や趣味の物を手元に置いて、自分らしく安心して暮らせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりには目立つように、蛍光テープなどを貼り、階段には滑り止め防止のテープ等を使用して安全に努めている。		